

アンケート調査結果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う
今後の学習会に関するアンケート調査結果

令和2年3月19日

中央大学通信教育部学生会横浜支部

はじめに

報道のとおり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が続いております。当支部では独自の判断及び通信教育部からの要請に従い4月上旬までの学習会を延期しましたが、それ以降に予定されている学習会についても、このままでは延期せざるを得なくなる可能性があり、先が見えない状況です。

COVID-19の完全な封じ込めには数四半期を要するとの見解も存在します。また、仮に、完全な封じ込めの前に、参加者全員にマスク着用・消毒・検温を義務付けたうえで天候に関わらず窓は完全に開放するなどの厳しい条件下で開講できたとしても、参加者数が見込めるのか、疑問が残ります。

以上を踏まえ、当支部では、今年度に当支部の学習会へ一定回数以上ご参加された支部員の皆さま44名を対象として、令和2年3月12日から、電子メールを使用して、今後の学習会に関するアンケート調査を実施させていただきました。ご回答いただきました35名の皆さまに心より感謝を申し上げます。

今回は、このアンケート調査の結果について、ご報告させていただきます。当支部としては、この結果を通信教育部委員会ほか大学ご当局との交渉・調整、当支部内における方針の決定等に活用していく予定ですが、他の学生会支部の方なども、今後のご対応をご検討される際の一助としていただければ幸いです。

調査担当 理事（協力員） 増田 剛三

主たるアンケートの設問

問1.

COVID-19の完全な封じ込めの前に、従来の会場において、厳しい条件下で学習会が再開された場合、どの程度、参加したいと思いますか？

(回答例)

- ・これまでと同様に参加したいと思う。
- ・これまでよりも参加の頻度は減ると思う。
- ・ほとんど参加しなくなると思う。
- ・どうあっても完全な封じ込めまでは参加しないと思う。

問2.

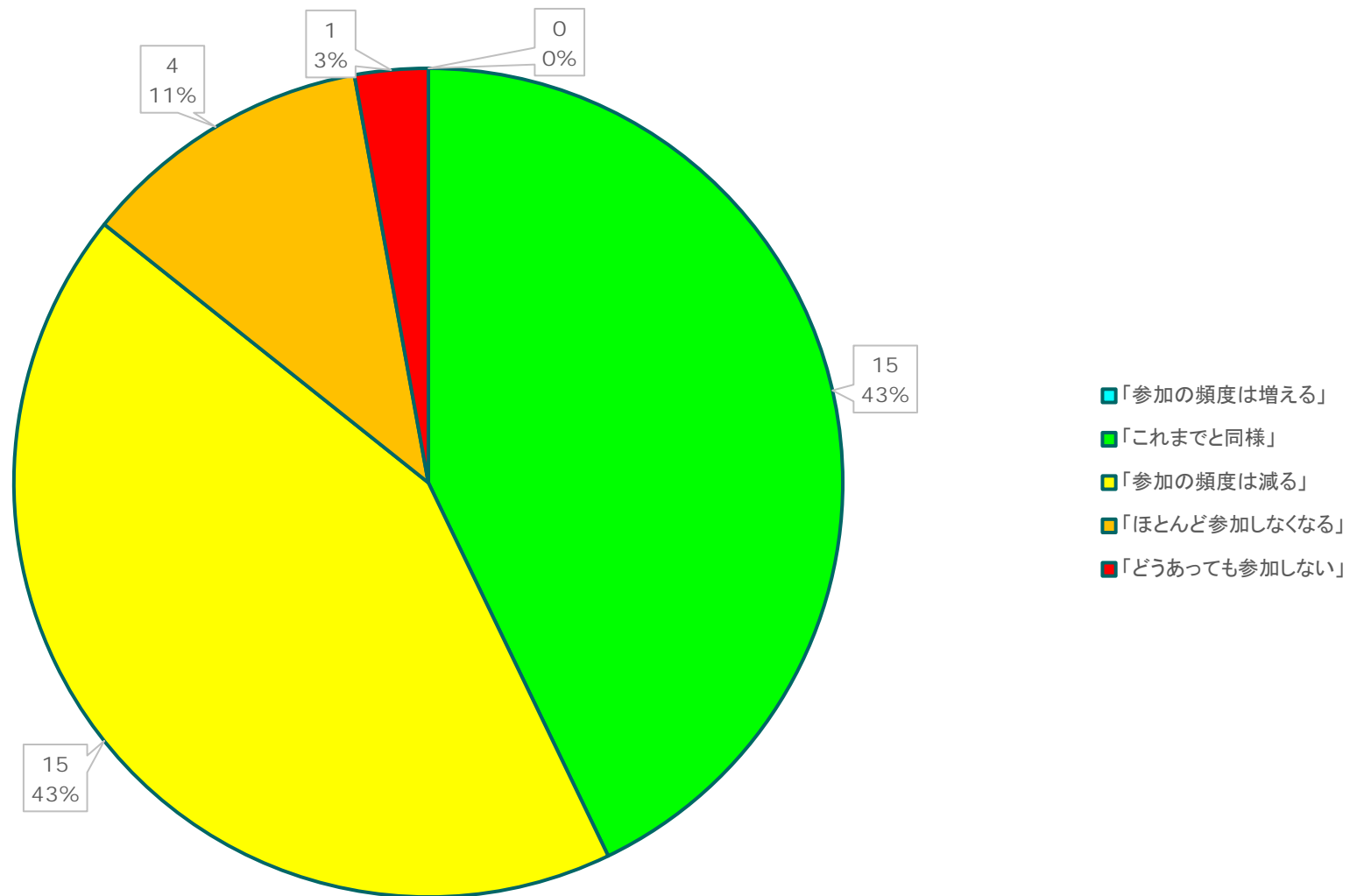
Web会議システムを活用して、PCやスマホからも参加可能なリアルタイムスクーリング型の学習会を開講できた場合、参加したいと思いますか？

(回答例)

- ・これまでよりも参加の頻度は増えると思う。
- ・これまでと同様に参加したいと思う。
- ・これまでよりも参加の頻度は減ると思う。
- ・ほとんど参加しなくなると思う。
- ・どうあってもWeb会議システムを利用するならば参加しないと思う。

問1. COVID-19 対策で制約のある従来型の学習会について

COVID-19対策で制約のある従来型の学習会



問1. COVID-19 対策で制約のある従来型の学習会について

【積極的なご意見】

- 今までどおりの開催を希望します。コロナウイルス対策として、体温測定等所要の対応には支部員として、協力いたします。
- 多少の影響はありますが、出たいものがあれば参加したいと存じます。
- 都内の英語学校で講師をしています。通ってくる生徒は小、中、高校生、社会人と様々です。休校にはならず、キャンセルされたクラスもありません。今のところ問題なく、これまでどおり仕事をしています。他にも、普通に授業を行なっている予備校や語学学校が多数あるようです。学生支部の活動も、独自の判断でいいのではないのでしょうか。
- 今のところ近くに感染者がおらず、危機感がないので、参加したい気持ちに変化はありません。都合が合えば参加します。
- また以前のような充実した学習会が実施されることを願ってやみません。
- 個人的には他の参加者の反応が見える従来型の学習会が面白くて好きなのですが。
- 新型コロナ肺炎の対策は、まずは、自己管理だと思ってます。お大事になさってください。
- 学習会は先生との距離が近く、楽しいので開催の回数が減るような事態は大変残念です。
- 天候によりけり。
- 短期スクーリングや夏期スクーリングなどが減少している現状をみると、支部での学習会は、対面授業を受けられる貴重な場であると思います。可能な範囲で継続を希望します。
- 開催にあたって、消毒や検温の実施が必須となるわけですが、開催費用とは別に費用が発生するかと存じます。その場合で、年間予算で費用が賅えない場合は、手続きを経てあるいは臨時の措置で、必要な範囲の費用徴収をしていただければと思います（幹部の方だけで負担しないように）。
- COVID-19 の感染拡大は「換気の悪い密閉空間」「人が密集」「近距離での会話や発声」という3要素（条件）が重なった場合に起こるとのことなので、「換気を徹底（窓は常時開放）する」「人の間隔を確保（中席は使用禁止）する」「近距離での会話や質問などを避ける」ことを条件とすれば、学習会の再開は可能かと思う。もちろん、マスクの着用、アルコールによる手や指の消毒などは必須、咳や発熱の症状のある方の参加はお断りする（検温も実施する）前提で。

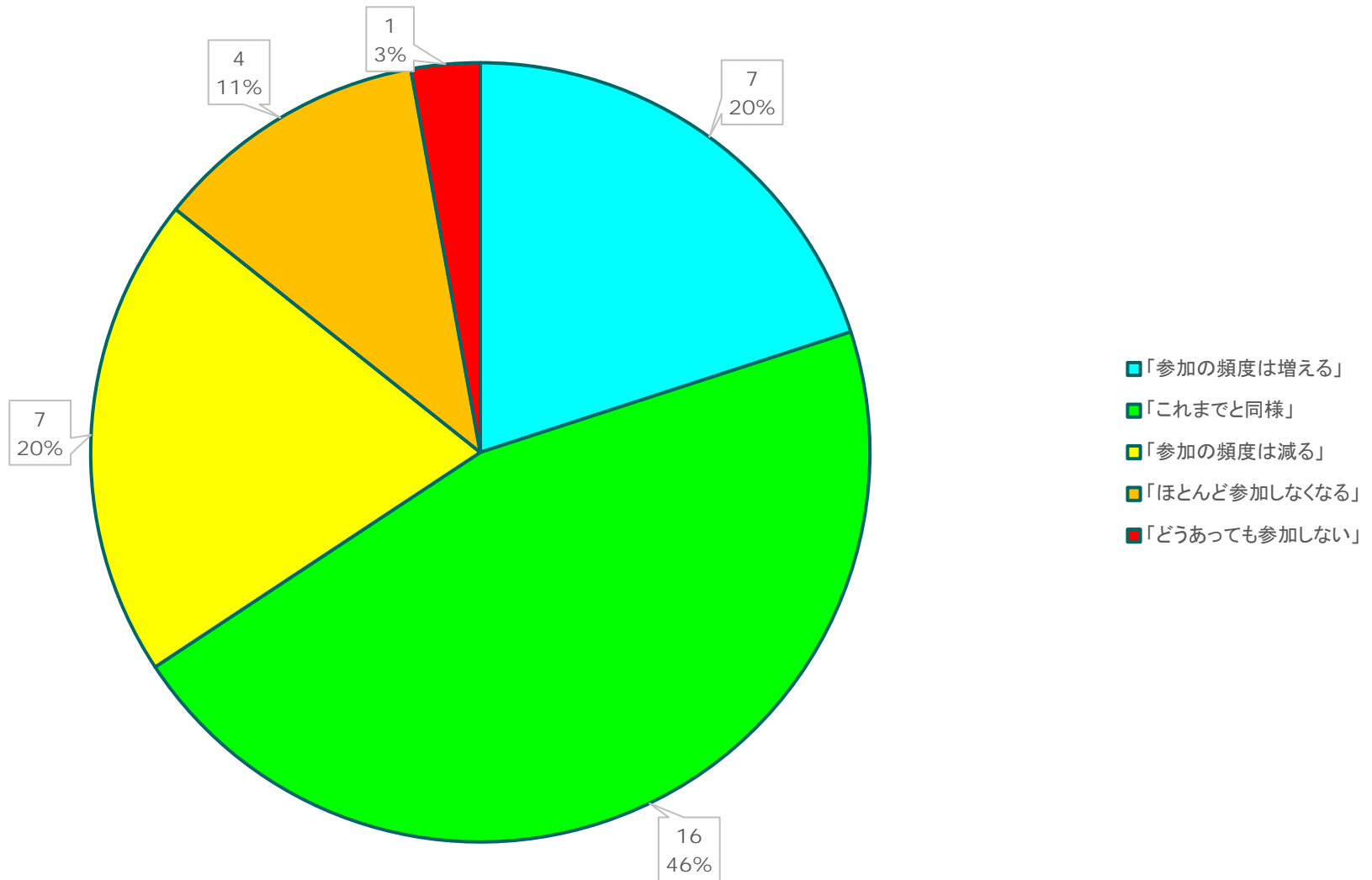
問1. COVID-19 対策で制約のある従来型の学習会について

【慎重なご意見】

- 職場の業務指示で社外の会合等への参加が（実質的にプライベートを含め）原則禁止されているので、無理です。
- 仕事に影響がでるような事態になることは出来るだけ避けたいため、ある程度対策がみえるまで、あまり人の多いところに出かけたくない。
- 社内会議だけでなく、卒業式、債権者集会・説明会等も中止または延期になっており、予防措置はやむを得ないと思う。
- 公共交通機関を利用せざるを得ない状況ですので、学習会には参加したいけれど、移動を考えると再考を迫られるのが現実かもしれません。
- もし自分が気づかない間に感染させてしまったら、という不安が大きいうちの参加は、躊躇してしまいます。
- 今回のウイルス感染は被害者にも加害者にもなりうるため、免疫力が低下して体調が悪いときは参加を控えるようになる。
- 講師や支部担当者の負担が大きいですし、県民センターの会議室は狭いため参加者も感染を気にすると思われます。
- 学習会が再開された場合、開催条件の制約が心配です。
- 気温がある程度高くなると、集中力も低下しますし、場合によっては体調が悪くなる人も出てしまうかもしれません。そのような状況下では、柔軟な判断が必要かもしれません。
- 検温、消毒、マスク着用は、仕方無いと思いますが、天候に関わらず、窓は完全に開放は物理的に無理？ではないかと思えます。暑さ、寒さ、強風、雨、外の騒音、こちらから出す騒音（講義内容なので、私達側からいったら、騒音ではないのですが、たまたま隣の部屋でも窓が開いていたら、そう思うかもしれません。）など。
- そこまでして無理に開催すべきではないと思えます。
- COVID-19 が重症化しやすいのは高齢者や持病のある方であり、通信教育課程には少なからずいらっしゃる。従って、通学課程よりも慎重な対応が求められる。厳しい条件下で学習会（に限らずスクーリングも同様と思われるが）を再開した場合でも、完全な封じ込めができていないのであれば、そうした人々の安全を保障することはできない。インフルエンザ等とは危険性が全く異なり、しかも未知のリスクもあるであろうことを勘案すれば、完全な封じ込めの前に従来型の学習会（及びオンデ以外のスクーリング）を再開することは避けるべきである。

問2. Web 会議システムを活用した学習会について

Web会議システムを活用した学習会



問2. Web 会議システムを活用した学習会について

【積極的なご意見】

- ウェブ会議システムによるスクーリング型の講義は、優れたアイデアですね。これには物理的な移動を伴いませんので、仮に実現した場合、積極的に参加してみたいと考えます。
- Web 会議などで講義が発信できるなら、ぜひ実現していただきたく、それが最良の対応と思います。
- 大学院の研究室のゼミが既に Zoom で行われています。大学院は閉鎖されていますが、先生は自宅から、学生は職場の会議室や外部のワークスペースや自宅から、それぞれ参加しています。映像・音声ともにクリアですし、プレゼン対象の資料を共有したり閲覧のみさせたりするのも簡単にできます。学習会も同様に進められると思います。
- 対面開催が少なくなった場合でも、現状から考えると致し方ないと思います。
- これまで以上に準備等大変になると思いますが、宜しくお願いします。
- リアルタイムスクーリング型であれば、感染リスク 3 条件について心配することもないので、とてもよいと思います。
- Skype や Zoom などを使用することで場所を問わずインタラクティブ型に相互参加出来ますし、公共交通機関の利用、人との接触を避けられると思います。一方的な配信型ではなくインタラクティブ型のオンライン講座のほうが本来の学習会の質を維持できるかと思います。
- 会場使用料がゼロになるのであれば、その分、学習会を増発することができるかも知れません。
- Zoom であれば、他の参加者のリアクションも見られるかも知れません。
- 当面、大学が提供するメディア授業を多めに選択しようかなと考えていたところです。しかし、その内容はどうしても網羅的なものに留まり、学習会のように深掘りの魅力に欠けるところが難点。当面、書物との対話だなと覚悟しつつありました。
- 私は、遠方よりの参加のため、Web 会議システムを利用した学習会はありがたいです。ただし、役員の方々の負担が大きいのであれば、無理には思いません。
- COVID-19 の問題が発生する前から Web 会議システムを利用したリアルタイムスクーリング型の学習会の構想はあり、有志による学生会神奈川支部再建の際の文書には提携先支部への配信の目論見も記載されていた。現在は Zoom 等のインフラが安価に利用可能となっており、当時よりも実現可能性は増しているといえる。現時点で学習会コンテンツのインターネット配信はご当局によって禁止されているが、禁止された経緯を踏まえつつ、懸念されるリスクの回避等が可能な計画を示せば、通信教育部委員会において解禁される可能性は十分にある。需要も見込まれるため、前向きに取り組むべきである。

問2. Web 会議システムを活用した学習会について

【慎重なご意見】

- 実際に横浜支部に行くから、学習するのであって、パソコンやスマホを開いて学習するかということ？です。時、場所、モチベーション、お友達が横浜支部の学習会にあるような気がします。
- 現在のような緊急時には、リアルタイムスクーリングの良さもあるかと思いますが、学生が単位を取る目的にしる学究を極めたい等いろんな目的があって一堂に会し、講義を受けるその空気感、臨場感は代えがたいものがあると思います。
- 確かに便利ですが、それだこの学習会の意味がだいぶ失われます。講義場所が自宅や会社の近くであり、先生に質問もでき、仲間と刺激しあいながら一緒に学習し、ランチや懇親会で情報交換する、という利点のことです。
- 周囲に他の学生の皆さんがいないので、まじめに最後まで講義を受けることができるのか？
- オンスクの1回を続けて見らなかった、見続ける集中力が続かなかったので、今は決められない。
- 色々環境が変わると不安。
- 私がインフラを整える用意がなく、横浜支部もインフラ整備に費用がかかることから、会費が値上がりする事、なによりも、対面講義が理解に最も効果があり、学習会としての意義を感じるからです。
- Web 会議のスタイルでの学習会については、居住環境から毎回の参加は難しいと思われる。
- 実施するにあたって、幹事の方々の手間が膨大になるのではないか？
- COVID-19 の問題への対応とはいえ、現時点で当支部規約においてもご当局においても禁止されている運用を実現するのは相当に労力を要するはず。その余裕があるのか。

— 以上 —